

横浜新都市脳神経外科病院

脳血管疾患に24時間365日対応し 急性期から慢性期までチームによる高度医療を提供

発症後すぐの治療が、命をつなぎとめるかどうかの分かれ目にもなる脳血管疾患。特に脳卒中は前兆もなく起こることが多く、発症した場合は迅速な処置が求められる。横浜新都市脳神経外科病院では、脳卒中の専門チームを設け、24時間365日救急搬送を受け入れている。そして術後のケアにも重点を置くことで、安心して退院できる体制を構築している。

脳卒中の専門チームによる 365日救急対応体制

脳卒中は発症後すぐの治療とその後のリハビリの両方が非常に重要となる。24時間365日、脳卒中の患者を受け入れ、その後のリハビリまで急性期から慢性期まで一貫してチームでサポートしているのが横浜新都市脳神経外科病院だ。

「年間3827件（2018年1〜12月）の救急搬送があり、その内約625件が脳卒中です。救急隊からの要請を断らず、脳卒中に特化したメデイカルチームが常に受け入

れ体制を整え、迅速に対応しています」

そう話すのは、地域で多くの救急搬送を受け入れている同院の森本将史院長だ。チームは院長をリーダーに、6人の日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医、4人の日本脳神経血管内治療学会認定脳血管内治療専門医、脳卒中の認定看護師や放射線技師、薬剤師などSCU（脳卒中ケアユニット）専属の多職種が連携し、万全の体制を整えている。

急性期の血栓回収は 年間84例の実績を誇る

治療にあたる院内環境も充実している。厚労省の施設基準を満たした、急性期中症治療を行うSCU（脳卒中ケアユニット）は、年々増加している脳卒中患者に対して、地域の要望に応え、2017年に18床を増設した。

「SCUを18床を整えている施設は全国でも稀少です。S



SCU（脳卒中ケアユニット）

回復期リハビリテーション病棟

CUでは、患者さんのそれぞれの症例に応じた治療と超早期リハビリを集中的に行っており、エビデンスとして、治療予後が良好と実証されています」

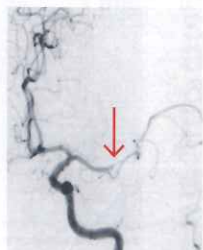
手術に関しては、メスを使って開頭する手術と、カテーテルを用いる血管内治療の両方を、同一メンバーで実施できる。

「手術に熟練した専門医による開頭手術と血管内手術双方



病院長 森本 将史

もりもと まさひろ / 1993年京都大学医学部卒業。2002年京都大学大学院医学研究科修了。同年Center for Transgene Technology and Gene Therapy（ベルギー）留学。国立循環器病センター脳神経外科、福井赤十字病院脳神経外科副部長、北原脳神経外科病院副院長を経て2010年横浜新都市脳神経外科病院脳神経外科部長。2011年より現職。脳血管障害を専門とする。医学博士。日本脳神経外科学会脳神経外科専門医。日本脳卒中学会評議員。



急性期血栓により、
血流が滞っている術
前写真



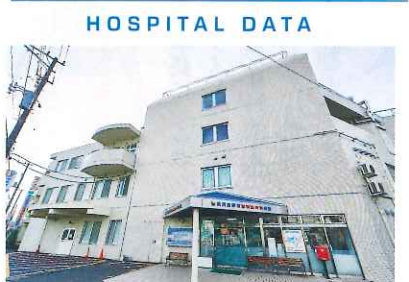
急性期の血栓回収
術によって取り除か
れた血栓

のメリットを活かした「ハイブリッド治療」により、症例に応じて治療法を選択し、より安全性の高い治療を目指します」

中でも注目されているのが、脳梗塞の血管内治療「急性期血行再建術」だ。アンギオ（脳血管撮影装置）で脚の付け根の動脈などからカテーテルを挿入、脳動脈に詰まった血栓を除去する治療である。

従来は発症から6時間以内の患者に対して有効な治療法だったが、2017年に24時間以内の患者に対しても症例に応じて有効性が示されたことで、適応が広がっている。同病院の2018年の急性期

脳神経外科の救急搬送件数			
	2016	2017	2018
	3,158件	3,501件	3,827件
年別手術数			
	2016	2017	2018
脳神経外科全手術数	673	737	678
うち血管内手術	260	237	305
脳梗塞			
急性期血行再建術	49	55	89
t-PA治療	49	55	58
脳動脈瘤			
コイル塞栓術	95	101	103
クリッピング術	60	68	43
頸動脈狭窄			
頸動脈ステント留置術	59	38	51
動脈血栓内膜摘出術	16	5	11



IMS(イムス)グループ 医療法人社団 明芳会
横浜新都市脳神経外科病院
 神奈川県横浜市青葉区荏田町433
 TEL.045-911-2011
<http://www.yokohama-shintoshijp/>

■許可病床数/317床 ■受付時間/8:00~11:30、13:00~16:00(土曜午後休診) ■休診日/日曜、祝日
 ■診療科目/脳神経外科、整形外科、内科、循環器内科、リハビリテーション科

血行再建術の実績は89件と、全国でも有数の症例数だ。「周辺に大病院が多数ある環境でありながら、この全国でも有数の症例実績は、救急隊に対して病院スタッフが誠実に、迅速に対応してきた実績の証だと思っています。常に救急患者を断らずに受け入れることが、患者さまや救急隊への信頼につながっているのではないのでしょうか」

MRIは最新の3テスラが1台、1・5テスラを2台備えている。いつでも精度の高いMRIの検査ができるのも、タイムロスがない理由の一つだろう。

最近同院では、くも膜下出血の予防手術を受ける人が増えてきている。事前に他院の脳ドックなどで、動脈瘤を指摘されて来院してくるケースが多い。「動脈瘤の手術に際して、いろいろと勉強してくる患者さまが多く、当院を選んでくれるのは、信用の証しであり身が引き締まる思いです。脳動脈瘤の治療は、2018年は146件ありますが、7割程は未破裂での予防手術です。これも開頭と血管内治療のハイブリッド戦略で、個々のケースに最適で安全性の高い治療を選択しています」

脳卒中は急性期後のリハビリも非常に大事だ。同院は、回復期リハビリテーション病棟も60床併設しているため、術後に他院へ転院することなく、患者の状態をよく知る医師とスタッフが患者をサポートしてくれる。

さらに病棟にはリハビリ認定専門医の他、OT・PTのリハビリスタッフが約100人、STが15人ほど在籍している。「脳外科の場合は、先進的な技術を駆使し、手術を的確かつ迅速に行うことも重要ですが、その後のリハビリも含めたケアのチームが揃っていることも同じように重要です。急性期と慢性期の両方に力を入れていく病院は実は多くなく、当院は急性期だけでなく、回復期医療にも力を注いでいます」

森本院長は救急隊を対象にした疾患の勉強会、脳卒中予防の市民講座といった、地域の人たちや医療スタッフに対する啓発活動にも尽力し続けている。こうした地道な努力が、質の高い医療と信頼につながっている。